



# 鎮守の森だより

NPO法人社叢学会ニュース

第116号

2022年3月7日

## 社叢インストラクター養成セミナーを開催！！

3月26日(土)・27日(日)に伏見稻荷大社と吉志部神社で

新型コロナウイルス感染症流行の終息が未だ見えないところではあるが、感染予防に留意しつつ、2年ぶりに社叢インストラクター養成セミナーを開催することとした。

伏見稻荷大社(京都市・26日)と吉志部神社(吹田市・27日)で、それぞれの社叢の特性を生かした実習と講義で、すでに資格を持つインストラクターのフォローアップ研修も兼ねており、希望者があれば27日には資格認定試験も実施する。

社叢では自然災害や気候変動の影響などによって、厳しい状況が続いている。社叢特有の問題も山積している。そんな中で、社叢管理の知識と経験を重ねた管理者の必要性が増している。

資格の既得者も含め、是非、ご受講頂きたい。

受講料は、正・協力・賛助会員は10,000円、市民会員は12,000円。社叢インストラクターは1日のみの受講も可能(1日5,000円)。申込者が3人に満たない場合は中止する。申込用紙は社叢学会ホームページ(<http://www.shasou.org/inst/ent.pdf>)に掲載しているので必要事項を記入の上、郵送されたい(mail不可)。申し込み締め切りは3月18日(金)必着。

送り先: 〒604-8115 京都市中京区雁金町373番地 みよいビル303号

※ 資格認定試験受験希望者は、その旨、事務局までお知らせ下さい。

3月26日(土)：伏見稻荷大社(京都市)			3月27日(日)：吉志部神社(吹田市)		
時間	内容	講師	時間	内容	講師
10:00～10:15	ガイダンス： スケジュール説明など	前迫ゆり	10:00～11:30	社叢フィールド観察： 樹木実習、社叢管理など	武田義明
10:15～11:45	社叢フィールド観察： イチイガシ林および樹木実習				
11:45～12:15	講義：フィールドのまとめ		11:30～12:00	講義：フィールドのまとめ	
13:00～14:20	講義：祭事に使う植物	渡辺弘之	12:50～14:10	祭祀の場の役割	上甫木昭春
14:30～15:50	講義：都市(まち)と社叢(仮)	糸谷正俊	14:30～16:00	インストラクター資格認定試験	
15:50～16:10	総括	前迫ゆり			

## 令和4年度年次総会は秩父神社で

6月11日(土)に研究発表・シンポジウム、柞の森拝観も  
12日(日)には三峯神社や武甲山へ(詳細は次ページ)

# 2022年度年次総会の概要

	時 間	内 容
6月11日(土) 総会・研究発表・シンポジウム	10:00~10:30	秩父神社正式参拝
	10:30~11:15	年次総会
	11:15~13:15	研究発表 伏見稲荷大社の神事・祭礼で使われる植物：渡辺 弘之 ギリシャ・ミケーネ文明、ヘレニズム、北アジア遊牧民族、北魏・隋・初唐のシャーマニズムの社叢の系譜について：岡村 穰 渥美半島の社叢の植生－特定植物群落のモニタリングの意義：長谷川 泰洋 氷川神社の社叢づくり：濱野 周泰
	13:15~14:30	昼食・柞の森拝観：解説 大澤 太郎
	14:30~18:00	シンポジウム「社叢が紡ぐ地域コミュニティ」
	14:30~15:30	基調講演 菌田 稔・社叢学会理事長・京都大学名誉教授・秩父神社宮司
	15:45~18:00	パネルディスカッション パネリスト：上甫木昭春・社叢学会理事・大阪府立大学名誉教授 茂木栄・社叢学会理事・國學院大學名誉教授 高田知紀・兵庫県立大学准教授 コーディネータ：広井良典・社叢学会理事・京都大学教授
18:30~19:00	懇親会	
12日(日) 見学会	9:00	西武秩父駅集合・出発
	10:30~13:00	三峯神社参拝と境内等拝観
	14:30~16:00	武甲山経由で秩父今宮神社へ
	16:00~	秩父今宮神社正式参拝
	17:00	西武秩父駅解散

### 参加費(予定・いずれもお1人)

	見学会	懇親会	シンポジウム
正会員・協力会員・賛助会員	10,000円	4,000円	無料
市民会員・同伴する家族	12,000円		
一般	15,000円	5,000円	500円

※ 感染対策として、マスクの着用をお願いいたします他、手指の消毒にもご留意下さい。なお、会議場では十分な換気、人間距離の確保を徹底いたします。また、見学会で使用するバスも、複数台を確保し、換気と密接回避に努めます。

※ 以下に、柞の森と武甲山をテーマにした過去の定例研究会の記録を再録いたします。

2004年6月26日 第11回 関東定例研究会 報告 講師：大澤太郎(森林ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ・埼玉県森づくり課)

## 「秩父神社・ははその社」を読む

**古社・秩父神社** 秩父神社は、2000年以上前に創建されたとされる関東地方でも最古の部類に入る延喜式内社の古社である。文献には西暦862年に秩父神社の記述がみられる。祭神は、ヤゴコロオモイカネノミコト(天の岩戸を開けたとされる智恵の神)である。

左甚五郎の壁面彫刻が有名で、つなぎの龍や虎、また智恵の神ということもあってか梟が祭られている。ご神木はイチョウで、これは市の木にも指定されてい

る。

秩父神社というと夜祭が有名であるが、これは秩父神社の祭神(女神)と武甲山の神(男神)との年に一度の逢瀬を表現したものである。

神社は秩父盆地のほぼ中央に位置し、武甲山に向かい合うような形になっている。祭神を乗せた神輿が、神社から武甲山へ向かう方向に南下して町を練り歩き、御旅所にいたる。最後の団子坂を神

輿が登ってゆくところがこの祭りのクライマックスである。

**門前町・番場町** 秩父神社の門前町にあたる番場町は、昔ながらの長屋仕立ての木造建築が並ぶ、味のある商店街である。夜祭の神輿のコースは、昔は番場町を通過していたが、その狭さのため変更された。狭い割に車通りは多く、今後は歩道を設ける、車の入れない時間帯をつくるなど、方策を考える必要がある。

番場町に並ぶ商店のうつりかわりをみてみると、昭和36年と平成10年では、日用品を売るような店は減ったが、カメラ屋、秩父銘仙を売る店、飲食店などは増えた。大正モダンのタバコ屋や旧家の屋敷門など、見ごたえのあるものも点在する。近年はコンクリート造などの現代建築も建てられている。

#### 「ははその杜」

「ははそ」とはクヌギ・コナラ・ミズナラなどのブナ科の落葉樹を意味する。

秩父神社社記によれば、「ははその杜」は秩父神社建立の前からあったようである。秩父神社周辺は、緯度的には暖温帯の植生と考えやすいが、実際には盆地なので冬の気温は低く、中間温帯の特徴も備えている。また、温暖化が進む前はさらに冷温帯に近かったであろうと想像できるので、ブナ類が自生していた可能性は高い。今現在の「ははその杜」の優

勢樹種はケヤキで、その幹径は1mを超えるものも数本ある。

寛政年間の絵図では、神社周辺にはスギのような樹種とマツのようなもの、そして広葉樹ではないかと思われる樹種が入り混じって描かれており、当時の植生が窺える。しかし現在、拝殿の裏にはスギの30年生くらいのもので多くみられ、神社にはスギ、といった思惑によって植えられたのではと推測される。他にもメタセコイヤ、チャンチンなど、献木されたのではと思われる樹種が入り混じっているのが現状である。今後は、シラカシのような常緑広葉樹が全体的に優先樹種となり、スポット的に落葉広葉樹が入り混じった森になると考えられる。

**開かれた「杜」へ** 昭和41年の台風で、秩父神社は甚大な被害を被り、「ははその杜」も倒木が多くあった。その後も都市開発にさらされ、杜の面積はどんどん小さくなり、現在に至っている。

そのこともあって、現在「ははその杜」は、環境保護のため一般人は入れないようになっているが、今後はもっと地域の人々が入れるようにすることが望ましい。地域住民が森を知り、愛着を持ち、森を育て、そして後代に伝えてゆく、そのためにはまちの「読み解き」をていねいに地道に行きつづけてゆくことが大切である。

(文責：青木いづみ)

2015年3月28日第65回 関西定例研究会 報告 講師：園田稔(社叢学会理事長)

### 森林文化と文明開化 ～香春岳と武甲山をめぐる課題～

**秩父神社の場合** 秩父は河岸段丘の盆地で、社叢はケヤキやナラ等の落葉広葉樹中心で柞(ははそ)の森と言われる。「ははそ」には実がたくさんなるという意味がある。神体山は武甲山で、ヤマトタケルが東征の折に甲冑を埋めたことからきた名前だという説もあるが、向(むこう)山がやがて「ぶこう」になったのではないかと考えている。向山は里の人が霊山として遥拝する向うの山という一般名詞で、秩父神社も盆地の南の端に屏風のようにある武甲山を神体山として遥拝してきた。通常は山を背後に、前が集落という位置関係なのだが、ここでは山に直面して神社がある。

大正末期に大規模なセメント採掘が始まり、山頂から効率的に削るために山頂にあった御嶽神社を南に移動させた。秩父太平洋セメント(株)の社長を務めた稲垣實氏は、「残壁の造成は新たな武甲山の造成」との考えから武甲山の修景に尽力された。現在、採掘会社が山壁に10mおきにベンチを作って植林しているが、法面が急峻なので木が大きく育たないと山を覆う緑ならないし、天水に頼っているため、今一つ生育状態よろしくない。そのため、採掘会社による植林に加え、武甲山再生フォーラムを作って植林を進めている。

**コスモロジーの修復** 香春岳も武甲山も、工業化の中で採掘対象になったのだが、採掘に対する抵抗は

あまりなかったようで、文明開化の力の強さを実感する。香春町史からは、むしろ積極的に誘致したことがうかがえる。香春町は、古くは栄えたが近代になって疲弊し、町の再興への期待があったのだろう。現宮司も過去の責任を問うわけにいかないとおっしゃっている。

武甲山も同じで、江戸時代の文書からは、地元民の共有林になっていたことがわかり、山は活用されざるを得ない存在だったといえるのだろう。(中略)

武甲山も同じで、江戸時代の文書からは、地元民の共有林になっていたことがわかり、山は活用されざるを得ない存在だったといえるのだろう。

では、現代文明が崇敬の対象を破壊するという状況をどうすればよいのだろうか。土地のコスモロジーとして修復するにはどうすればよいのだろうか。

元の姿には戻せないのだから、象徴性をどう再構成するかが問題だ。地元には、武甲山に対して故郷の山という気持ちはあるが、崇拝するには至らない。そこで、武甲山を正面に拝する御旅所の再構成を考えている。森と鳥居を配し、神聖な場所としての造形をすることで意識を変える。さらに山頂に奥宮を作ることも必要だ。これには地元民も賛同している。

近代の文明開化で物質的には豊かになったが、地元が誇りに思ってきたふるさととしての景色を失った。これを再興すれば観光面でも魅力となり得る。(後略)

## 東日本大震災社叢復興支援事業報告書を発行

あの日から11年。被災直後から8年間の全てを記録

現地調査員の生の声も 頒価 3,000円

## 森本幸裕理事 「松下幸之助記念賞」を受賞

森本幸裕理事が、公益財団法人松下幸之助志記  
念財団(本部：神奈川県茅ヶ崎市)の、第30回「松  
下幸之助記念賞」を受賞、2月5日にオンラインで  
の賞の贈呈式、講演会が行われた。

この賞は「自然と人間との共生」という花の万  
博の基本理念の実現に貢献する、すぐれた学術研  
究や実践活動を顕彰するもの。森本理事が取り組  
んでこられた「雨庭(あめにわ)」の研究・普及活  
動が評価された。

「雨庭」は、温暖化と生物多様性の危機への賢  
明な取り組みを目指したもの。雨水は、これまで  
下水に流していたが、大雨の時には急激に河川に  
流れでて堤防に負荷をかけたり、下水に排水しき  
れずに「内水氾濫」を引き起こしてきた。雨庭は  
降ったその場で雨水を受け止めてゆっくり浸透を  
図る植栽空間で、京都の目抜き通り、四条堀川交  
差点の角にも設置されている。

## 事務局から

- 感染が少し落ち着き、やれやれと思っていたと  
ころに、まさかの変異株の大流行となってしま  
いました。今度こそいいながら、3度目の春  
を迎えようとしています。とはいえ、科学的知  
見の蓄積や治療薬開発など、ようやくトンネル  
の向こうに光が見えてきた気がいたします。正  
しく恐れ、適切な対策を講じることが求められ  
ています。会員の皆さま方におかれましては、  
今しばらくの辛抱かと存じます。くれぐれも、  
お元気にお過ごしください。
- いよいよ今年は秩父大会を開催いたします。感  
染状況に予断を許さないところはありますが、  
受け入れの秩父神社でも細心の予防策を検討し  
てくださっております。参加側も責任ある行動

で感染しない、させないを合言葉に、コロナに  
負けない盛会を実現すべく努力してまいりたい  
と存じます。

いよいよ皆さま方と再びお話し、直接お話し  
ができるかと思うと、今から胸が高鳴ります。そ  
れまで予防専一に、ご自愛くださいますよう、  
重ねてお願いいたします。

- 会誌『社叢学研究』第20号を同封いたしました。  
発足から20年。会誌も営々と発行を続けて参り  
ました。記念特集として「疫病と宗教文化」を  
取り上げました。いずれも興味深い論考が揃い  
ました。また、「活動報告」や「社叢訪問記」な  
ど、会員の皆さま方の意欲的なご投稿もいた  
だきました。ぜひ、ご一読ください。

## 編集後記

いかん、いかん、つい逆上してしまった。だ  
ってさ、締め切りを守らない人とか、連絡は郵  
便(なかなか見てくれない!)か電話(なかなか出  
てくれない!)だけの人とかがいて、仕事はか  
どらん!! 火曜日と木曜日は出勤日じゃあな  
いの、出勤を余儀なくされたやないの!

で、1日遅れたっていいじゃない? の一言に  
爆発してしまった。。。いかん、いかん、こん  
なにプンプンしたために免疫機能が落ちてコロ  
ナさんにやられたらどおしてくれる!

新しい日常とか言われているのに、締め切り  
を守れない日常はまあまったく変わらない。どゆ  
こと? コロナさんよりしぶとい。ある意味す  
ごい。。。いかん、いかん、関心しとる場合  
ではない。ちょっとは変異して下さいっ!

しばらく事業が出来なくて(=平和な日々が続  
いたので)、心身ともに鈍り気味。心して年次総  
会を迎え撃たねば。それにしても6月なんて、あ  
っとゆー間に来るんだろ〜な〜。(藤岡 郁)

## 次回予告【第41回中部定例研究会】

- ◆日 時：3月13日(日) 13:00~15:00
  - ◆場 所：伊良湖地域の神社と社叢
  - ◆講 師：荒木田 健(愛知県神社庁田原支部長、神明社宮司)  
長谷川 泰洋(社叢学会理事・名古屋産業大学講師)
  - ◆コメンテータ：櫻井 治男(社叢学会副理事長・皇學館大学名誉教授)
  - ◆会 場：中山・神明社社務所(田原市中山町宮脇本畑32 tel0531-32-2099)
- ※ 会員は無料。非会員は会場整理費として500円いただきます。

発行人 社叢学会事務局 〒604-8115京都市中京区雁金町373番地みよいビル303号  
TEL・FAX 075-212-2973  
URL <http://www.shasou.org> E-Mail [shasou@ams.odn.ne.jp](mailto:shasou@ams.odn.ne.jp)  
facebook <https://www.facebook.com/shasou>  
社叢学会関東支部 〒368-0041 秩父市番場町1-1 秩父神社社務所内  
TEL080-1514-5032 E-Mail [shasougakkai@hotmail.com](mailto:shasougakkai@hotmail.com)